



平成21年 7月15日

8面	7面	6面	5面	4面	3面	2面
ひと・視点・ペンペン草	俳句・短歌	声・すぼとこ・こどもの詩	スポーツ・情報	さつきと寥太 花の句展示	(上新井・名子・上大島)	地区公民館健康学習会
					親子わくわく体験教室	まつかわ寄席まつかわ大学
					男の料理教室	

まつかわ百景

③

ツルアジサイ

梅雨時の湿気をおびた空気のなか、樹木に絡むツルアジサイの花が満開だ。(清流苑付近)



峠の深い谷間から、熊よけの鈴の音が聞こえ始め、やがて子ども達の歌声が響いてくる。片道3km以上の山坂を、娘たちが登ってくる。重たいランドセル背負い、図書袋をさげ、毎日通学する姿を見ているだけで、頭がさがる。そんな娘たちの通っている松川東小学校は、全校生徒22人の小規模校だ。生東地区のシンボルとも言える東小学校は、この地域に根づいた教育が伝統として受け継がれている。その一つが全校合唱だ。長野県はもとより全国大会へ出場して入賞するなど、その歌声は高く評価されている。先日、行われた音楽会も最初から最後まで目が離せない、いや耳が離せない素晴らしいステージだった。東小学校の子どもの純粋で力強い歌声に、今まで何度も涙し励まされてきた。そのたびに、何故こんなに感動するのだろうか？感動に理由なんていらないが、あえて、その理由を僕

主張

大切にしたいもの

なりに分析してみたい。①足腰の強さ。しっかり体を支えてこそ、いい声が出る。②自然の豊かさ。小鳥のさえずりや木々の間をそよぐ風に触れ、感性が磨かれる。③一人ひとりが主人公。22人全員が自分のパートに真剣に取り組んでいる。「大きな声を出すのは恥ずかしい」とか「自分一人ぐらい歌わなくてもわからない」なんて子どもはいない。それが信頼関係を深め、先生と子ども達の心を合わせ鏡のように、映しあい響き合っているのだと思う。音楽会での校長先生の挨拶が素晴らしかったので、一部分を最後に紹介したい。「36災害後の東小学校での初めての授業は、全校音楽でした。家をなくしたり、身内を亡くしたりして、傷ついたり子ども達を、歌で励ましたいという思いが込められていたのではないのでしょうか。」生東の山間に響く、子ども達の歌声がいつまでも消えないことを、心から願う。

遠藤健二(峠)

まつかわ寄席 高齢者講座

まつかわゆかりの 真打登場

まつかわ寄席は、健康的に笑ってもらおうと開催されており、今年も高齢者講座も兼ねて開かれました。これまでも落語を行ってききましたが、真打の嘶家を招いたのは初めてのことです。松川町とも関わりのある方ということで、終始楽しく和やかな雰囲気となっていました。

披露された落語は古典落語ですが、菊生さんの話し方しぐさなど、プロの技が一体となり、現代でも十分に楽しめる内容でした。

集まったみなさんからは「またやってほしい」など、満足の声が聞かれました。



落語でおなじみのまつかわ寄席が、6月14日(日)に町民体育館トレーニングルームで開かれました。今年も真打の古今亭菊生さんが訪れ、本場の落語を披露してくれました。

古今亭菊生さんは東京都の方ですが、お母さんが松川町出身で当町とは縁のある方です。子どもころにはよく松川町を訪れたそうです。古典落語の嘶家で、平成14年に真打に昇進しました。

会場には140人ものみなさんが集まり、真打の落語に大笑いがやみませんでした。

6月20日(土) 町民体育館トレーニングルームにて第1回まつかわ大学が開催された。講師は、元NHKスポーツ担当アナウンサーで、大相撲放送でおなじみの日本福祉大学生涯学習センター長の杉山邦博さん、昭和の名力士のエピソードを語ってくれた。



杉山さんがスポーツアナウンサーを目指したきっかけは、小学校の頃ラジオ放送で聞いた玉錦と双葉山の取り組みを言葉だけで状況が目に見え、よくなアナウンサーの実況に感動した事だそうです。

昨今大相撲も国際化が進んでいるが、大相撲の国際化とは柔道のような世界に合わせルールを変えてゆくものではなく、頑固なまでに絶対に変えない事で、ルールも、立ち居振る舞いも、あるべき姿も変えずにその中に取り込んでゆく事だと語り、中でも大

相撲の国際化に貢献した高見山は日本人より日本人らしく辛抱だけで、頑張り続けてきた。初優勝した時ものなんのパフォーマンスもなかった。そこに「抑制の美」を見たとはめたたえ、それに対して朝青龍が怪我から復帰後優勝した際にガッツポーズをとった事に対して、体中の血が冷えた様に感じたと言い、横綱は全

まつかわ 大学

講師 杉山邦博氏

ての力士の頂点であり代表であり、手本でなければならぬいと語られ、あいつた振る舞いが許されてしまえば相撲の精神文化が破壊されてしまふと心配されていました。

もともと相撲は神事であったが、今では興行でもあり、スポーツでもある日本独自の文化になっている。相撲では勝った時こそ負けた相手の事

を考えるよう指導している。それが相撲の文化である。そして文化は一度破壊されてしまえば再生は難しい。だからこそ伝承するには努力がいると語られていました。

最後に、一流と呼ばれる人は謙虚である。そこには抑制の美がある。今の教育では子ども達に喜怒哀楽を素直にあらわすように教えている。けれども、時と場合によっては相手の事を考え、喜怒哀楽を抑える事も大切であると語られました。

緩急をつけた語り口で、時に笑いもおきる楽しい講演でした。





料理教室 男の

7月5日夜7時より、「男の料理教室」が開催されました。今回は講師に「農村女性ネットワーク」の皆さんをお招きし、ヘルシーで手軽に美味しく出来る夏料理に挑戦し



なかなかの包丁さばき



親子で男!の料理つくります

性は4人程の各班に別れ、講師の方の指導で実際に調理を行いました。手軽に出来るメニューとはいえ、普段台所に立つ事の少ない男性としては、包丁の使い方から始まり、調

理のちょっとしたコツなど、苦戦する場面もありましたが、参加者全員楽しみながら調理を行う事が出来ました。調理時間は約40分程、その後参加



きれいに盛り付けてや



あ〜れ〜、美味しいなん!

者全員で試食を行いました。講師の皆さんのおかげで各班共、美味しく調理が出来、また、メニューも夏バテ対策にピッタリのさっぱりした味わいで、参加者に大変好評でした。来年も開催される予定のこの教室、普段台所に立たれない男性陣の方々、是非この教室に参加してご家庭で披露し、ご家族を驚かせてみてはいかがでしょうか。

親子わくわく 体験教室 手作り楽器で 音遊び

第3弾

「うぐいす笛をつくらう」と題して6月28日(日)松川北小学校図工室で手作りの楽器を楽しみました。

軍手をして鋸や小刀を持った親子連れは遠藤健二さんの指導で真剣に取り組みます。



気を付けて使おう

最初に太目の竹を5cm位に切り縦の一面を平らに削ってドリルで穴を開けます。次に細目の竹は3cm位で切り先を紙ヤスリで斜めに削ります。そして太い竹の穴に細い竹の斜めに削った部分を接着するのですが、その時吹きながら音を調節すると一番良い音の出



いろいろな鳥笛ができます



吹いてみました

る所が決めやすいようです。あちこちで笛の音が聞こえて来たら遠藤さんの竹楽器と一緒にみんなで合奏をしました。高い音や低い音、指で押さえて音階を出せる物などリズムを取って楽しい竹楽器演奏会を行う事が出来ました。子ども達はもちろん、大人も夢中になれ、出来上がった笛を吹きながら帰りの車に乗りました。



優しく教える遠藤先生

上新井公民館

健康問題研究会

6月6日(土)に上新井コミュニティセンターで、役場保健福祉課保健師の松尾由貴子さんを講師にむかえ「心の健康について」をテーマに上新井地区公民館健康問題研究会が行われました。

は心の病気の症状が消失すると同時に消えるといえます。また疲労蓄積度チェックリストを使い点数から今の自分の心の健康状態を客観的にチェックし、思った以上に疲労度が高いという結果になった人もいたようでした。



講師 松尾由貴子さん

「皆さんの心はどこにありますか？心は元気ですか？」という質問があり、心というのは数字を出せるものがなく自分も周りも調子が悪くても気付かず心の病にかかり、最終決断として自殺してしまうとテーマについて入っていきましました。昔に比べ家庭問題、経済生活問題などが原因として増加し、近年では原因不祥が急増し周りが気付かないうちに自殺してしまうのが現状。ある新聞では心の傷が脳を傷つけるという記事があり精神疾患により脳に穴があいてしまう、しかしこうした脳の傷



会場の隅では血圧測定も行われ、心の病にならないためには好きなことをしたり、リラックスすることが必要で参加者全員で簡単なストレッチを体験しました。普段から血圧を測ったり検診を受け身体も心も健康チェックをして、客観的に自分の体を知り機会を作ってほしいと話されました。

名子 健康学習会

「無理なく健康的にウエイトダウン！」昨年実施した講座では、1日1万歩を目標に正しいウォーキング法を学んだ。今年は応用編の「インターバル歩」最初の1時間は、講師のNP法人熟年体育大学リサーチセンターの下平博和先生の指導。参加者は30分じっくりとストレッチで体を解し、自身の体の状態をチェック。「体のバランスの崩れは姿勢の崩れ」ケガにつながるので注意が必要だ。次の30分は待望のウォーク。まずは正しい姿勢を「意識して」歩こう。大きく腕と足を使って！体育館の端から端まで一斉に歩く。慣れてきたところで本格的に。「大きく！×2」「ける！×2」下平先生



の掛け声に励まされトレーニングルームを周回。後半はキッセイウエルコム(株)石川忍先生の解説。普段の歩行速度で1〜2分と少々早い速度での2〜3分を繰り返す「インターバル歩」は、た歩くのに比べ、効率よく多くのカロリーを消費することができるといえる。保健福祉課の北澤保健師さんからは、健康診断の結果に基づき、区民の健康状態についてのお話。他地区との比較表もあり、名子地区では腹囲の数値が高い方が多めという結果も。今回の講習を糧にして、住民各位の日々の継続が期待される。区では9月にもウォーキング講習会を予定している。打倒メタボ！区民の戦いは続く。

先日、公民館で健康福祉学習会があり、改めて自分の健康について考える事ができました。若い頃はもちろん結婚して子どもを産んで、今は子どもと家庭の事で毎日が忙しく自分の健康など考える暇がありません。でも40才を過ぎなんか体調が今までと違うなと思う時たびたび。友達には「更年期な！」と傷つく一言。出産の時しか入院の経験もなく、いたって健康な人生で病気とは無縁です。今回の学習会は「腎臓」についてでしたが、普段考えてもみない臓器であり知識もありませんでした。とても大切なものとなり、気をつけなければと思いました。昨年は健康診断をさぼってしまいました。是非受けて、自分の体を見直してみたいと思います。

上大島 健康学習会

榎原 宮沢貴子

第8回さつきと蓼太花の句展 蓼太記念俳句作品

初夏を告げる恒例の資料館さつき展、第八回「さつきと蓼太花の句展」に、今年も町内3校の児童の皆さんが総数100句の俳句作品を寄せてくれました。応募作品は町内の俳句愛好の皆さん4名に審査していただき、最優秀作品3点、優秀作品17点を選んでいただきました。

◆最優秀作品

みいつけたあそこの空き地につくしんぼ
ひなが五わ毛がはえてるよ足もある
夏休み計画表がおどります

中央小 四年 吉川 友菜
東小 二年 本塩りょうた
東小 四年 遠藤あんり

◆優秀作品

もうすぐださくらさいて二年生
あめのおとほとほとばらばたのしいな
たんぼぼはいつもきれいな黄色のぼうし
チューリップ風にふかれてわらつてる

東小 一年 しみずおとね
北小 一年 原 なつき
北小 一年 きのしたゆか
中央小 二年 宮沢 芳光
中央小 二年 下平 愛葉



明日はねしあわせだからくるんだよ
山の雪小川になつて春をよぶ
家の外花がいつばいこんにちは
さくらがね風でひらひらおどつてる
木々たちがさわさわゆれてしゃべりだす
春になり命が新たにほじまつた
祖母が煮る山菜の香り台所

北小 二年 岡部 琴
北小 二年 原 美里
中央小 三年 木地谷美波
中央小 四年 山崎 央斗
中央小 四年 中村 雛乃
中央小 五年 本塩 麻衣
中央小 五年 稲垣 汐里



わた毛たちくきをのぼして風を待つ
母の日に何もしいけど「ありがとう」
春だよと風の香りが知らせるよ
あたたかい日だまり見つけねこひるね
春の朝優しい光で目が覚める

中央小 五年 宮下 絢
中央小 五年 山岸 貴奈
北小 五年 小木曾詩乃
北小 五年 矢澤 彩夏
東小 六年 大栗 京華

応募いただいたすべての作品は、時々感動が純真な子供らしく素直に表現されており、私たち大人にもその感動が直に伝わってきます。こうした何気ないものに感動する心を、いつまでも持ち続けて行ってもらいたいものと思います。

大島蓼太自筆俳句が

寄贈されました

大島出身と伝えられる江戸時代の俳人、大島蓼太（雪中庵三世）を顕彰するため、町では「さつきと蓼太花の句

展」・蓼太記念俳句展などを開催しますが、このたび、蓼太自筆の俳句が町に寄贈されました。

寄贈された俳句は、当初、蓼太が短冊に記したもので、後に短冊の表面を剥がし、軸装の本紙部分にはめ込んだ手のこんだもので、蓼太独特の文字で、「とかくして晦日にふりぬさつき雨」と記し、右下に「蓼太」と揮毫しています。

この蓼太自筆俳句（軸装）は、松川自治会の井口芳則さんが所蔵されていましたが、「私を持っているより、町で活用していただきたい」として、資料館へ寄贈してくださいました。

町には「大島蓼太文庫」（町指定文化財）の中に蓼太吉野山句自画賛が保存されていますが、今回寄贈いただいた「さつき雨」句も蓼太自筆の一級資料としてきわめて貴重なもので、蓼太文庫として町文化財の追加指定となるべき資料です。

資料館では大島蓼太を顕彰し、多くの皆さんにより蓼太を知っていただくため、この素晴らしい文化資料を活用させていただきます。

（寄贈された蓼太俳句（軸装の部分））

（資料館）

梅雨になんか負けたくないぞ 夏に向かかって元気にスポーツ

第18回松川町 混合ダブルス バドミントン大会

6月14日、町民体育館にて松川バドミントン協会主催により開催された。

結果は次の通り

Aブロック

優勝

佐々木章吾&佐藤優

(多摩川B・C)

準優勝

湯沢昂平&水田友美

(ジュニアB・C O B)

第3位

原一典&中山真理子

(多摩川B・C)

第3位

窪田和也&蒲奈美保

(松川B・C)

Bブロック

優勝

小原拓也&山本さくら

(松川高校B・C)

準優勝

北林翔太&林加菜子

(ジュニアB・C O B)

第3位

米村寿&北沢真希

(上片桐B・C)

第3位

中山仁&松下睦規

(松川高校B・C)

Cブロック

優勝

松下弘充&柁津愛美

(福与B・C)

準優勝

魚田大郎&宮崎真理子

(福与B・C)

第3位

山田和浩&木下恵美子

(松川B・C)

第3位

小野川幸洋&山路和美

(ジョイフルB・C)

Dブロック

優勝

山岸哲&高田奈々未

(ジュニアB・C)

準優勝

米山俊介&佐々木順子

(ジョイフルB・C)

第3位

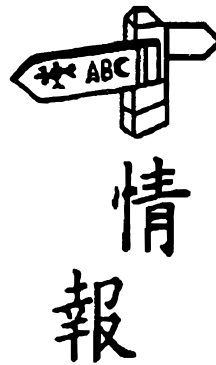
横田和芳&小池敬子

(上片桐B・C)

第3位

高橋陽平&坂本紅音

(福与B・C)



本館行事

〈人形劇場〉

期日 8月9日(日)

会場 町民体育館

時間 午前10時〜

劇団 どむならん

内容 「にゃーん」

「どむならん」

〈松川町成人式〉

期日 8月15日(土)

会場 町民体育館

時間 2時20分〜受付

〈第1回高齢者講座〉

期日 8月21日(金)

場所 町民体育館
時間 午後1時〜
内容 楽しく！健康体操
講師 南信教育事務所
飯田事務所指導主事
曾我佳伸氏

〈町民ゴルフ大会〉

期日 8月23日(日)

場所 高森カントリークラブ

内容 ゴルフ

〈ファミリー登山〉

期日 8月29日(土)

場所 陣馬形山

時間 午前8時30分

中央公民館集合

〈まつかわ大学〉

期日 8月30日(日)

場所 町民体育館

時間 午後1時30分〜

内容 「おらあ日本のマンマが食べてえ」

講師 農業講師 宝井琴梅氏

〈なかよしクラブ〉

(第1回)

期日 8月4日(火)

会場 むらやま公園

内容 川遊び

(第2回)

期日 8月18日(火)

会場 清流苑

内容 プール遊び

会員募集「囲碁同好会」

松川町囲碁同好会は、昭和43年、当時の町長・公民館長さんを顧問に、細田忠逸さんを会長に、会員140名余りで発足した歴史ある会です。

毎月例会を行って勉強をしております、1月の新春大会、8月に大会を開いて頭の体操をしています。認知症防止に楽しく囲碁をうちませんか？

夏期囲碁大会のご案内

- 1.日 時 平成21年8月22日(土) 午前10:00~
- 2.場 所 中央公民館2F 学習室1
- 3.参加費 300円

どなたでもお気軽にご参加ください。

会長 北沢正一
☎37-2629





ネイチャーキッズは楽しい!

松川北小6年 松尾 悠人

「ソーッとソーッと。」そう言いながら木の上を歩く。今日はネイチャーキッズで、今は自由時間。ぼくはおよりの森の大字広場の横にある池のまわりを探検している。それで池にむかってたおれている木の上を歩いていきます。ぶじに先っぽまでたどりつきました。回りを見てからそつともどります。ネイチャーキッズではこうした自然探検があたりまえにあります。ぼくの家近くには森があるけどふだんは遊びになんかいきませ

公民館編集部に入って3ヶ月。県の公民館研修会に参加する機会を得た。『地域に密着した活字情報媒体』という少

し重々しい演題で始まったパネルディスカッションだったの初めて自分にとつては多少不安な気持ちがあったが、それぞれのパネリストの意見を聞く中で一つの共通点に気がついた。

ん。でもネイチャーキッズに行くとなすんで森に入ったりしたくなるのがふしぎです。こんどは木いちごを食べました。この木いちごはおよりの森に自生していて4月から芽ぶき、花、実と観てきました。なのでうれしいです。

「ん〜ふしぎな味がする。甘いような苦いような感じ。」

それは、地域に向けて情報を発信するという事は、地域とのつながり、「人脈」によって成り立っているという事だ。

『ナナメの関係』

館報研修会に参加して

公民館編集部 大東 洋文

館報の場合、「親と子」「教師と生徒」といったタテの関係や、友達同士のようなヨコの関係以外に異なる世代間の『ナ

味は信じられないほどおいしかったです。これからはネイチャーキッズでやった事を家でどんどんためてみたいです。



成長してるかな〜? — みんなで植物観察—

ナメの関係』によって得られる様々な情報があるからこそ、長きにわたり情報を発信し続ける事ができたのだと思つた。

核家族化が進み、異なる世代間で交流が少なくなる中で、様々な人と交流

できるチャンスを与えていただったので、「館報」という媒体を通して自分自身成長していきたいと思う。

こころの詩

楽しそうな木

北小4年 宮原満久

日があたつてうれしいな。

雨がふつてうれしいな。

風がふいてきた。

サワサワ、サワサワ

ああ、気持ちいいな

サワサワ、サワサワ

おかげで毛がはえてきた。

花がさいてきた。

うれしいな、うれしいな。

実がぼとん

北小4年 とちの木 かずお(下村一雄)

実がぼとん

たくさんぼとん

いろいろぼとん

大きいぞ

ぼとんぼとん

いいぞいいぞ

いい実がたくさん

おめでとう

落ちてくれた

俳句

山田正歩

右左 会話促す 扇風機

湖の ボートパラソル 一つつつ

袋掛け終えて 艶増す 顔と顔

防除機の 唸り遠ち近ち 梅雨晴間

暑気払い 五体がゆるむ 農休み

短歌

川上貞子

瀬の音が子守唄なりや

幼児は手足伸ばして昼寝のながし

「ブンベツ」とアイスの袋と棒を分け

ゴミ箱に入れるヨチヨチ歩く児

「じぶんで」と靴をはきいる一歳半

手をかす吾に靴ふり手向う

「母さんの迎えがいい」と泣いた児が何たくらむや今日はばあばという

説明書見入りて作るプラモデル また字の読めぬ四歳の模索

2才賢くなって

2年前私はアメリカでの仕事を辞め、全てのものをアメリカに残し、松川町の英語教師としてバッグ片手に日本にやって来ました。この事は、私にとって今までの人生の中での最良の選択の一つだったと思っております。

松川町に初めて着いた時は、蒸し暑い時で、皆さんがお盆という行事をしていました。

お盆が何だか分かりませんでしたし、一緒にお盆をする人もおりませんでしたので、大変寂しい思いをしました。

でも、暫くして学校が始まりましたし、中央公民館で英会話を教え始めましたので、まもなく沢山の新しいお友達ができました。それに皆さんが私を知って下さるようになりましたので、生まれて初めて有名になったような気分を味わいました。

慣れなければならぬ新しいことは山ほどありましたが、松川町で数少ないガイジンの一人在ることに慣れなければなりませんでした。

日本では靴を脱がなければならないことを考えて、きれいな靴下をいつも履くようになりました。

挨拶はどんな時でもお辞儀をするものだということを知りました。また、車を運転している時でもお辞儀をして挨拶するようになりました。

ラーメン、ヤキニク、オコノミヤキ、そのほかアメリカでは見たこともない色々な日本の食べ物を好きになりました。

なかでも、日本の皆さん、特に松川町の皆さんが何と親切で、心の広い人達なのかということを知りました。

こちらに来て以来、皆さんのご家庭にお招き頂き、様々な日本の文化に接することが出来ました。それは私一人では、決して経験できるものではありませんでした。

私に示して頂いた皆さんのご親切にお応えすることは到底できるものではありませんが、決して皆さんのご親切は忘れることはありません。

この2年間で、私は2歳年をとりましたが、同時に2歳賢くもなりました。

日本に住んだお陰で、良い意味で私は随分変わりました。

そして、いつの日かこの素敵な経験をアメリカにいる人たちと分かち合いたいと考えております。

始めて日本に着いた時には、ずっとこのまま此処に日本に住めないことは分かっておりましたが、こんなに日本を離れ難くならうとは全く思ってもみませんでした。

美しい田園の下伊那、下伊那の味、音、それぞれの季節の香り、それに私の出会った素敵な皆さんと別れることは本当に寂しい限りです。

いつの日か再び皆さんと日本の何処かで、アメリカの何処かで、世界の何処かでお会い出来る事を私は願って止みません。

ですから、皆さんとのもう会えないということではありません。しばしのお別れです。

(皆さん)ほんとうにありがとうございました！

エリザベス・ファームッジ

(訳 公民館英会話教室受講生 田中成昌さん)



公民館英会話教室講師

エリザベス・ファームッジさん

Two Years Wiser

Two years ago, I quit my job, packed my bags, and left everything I knew in America to come and be an English teacher in Matsukawa-machi, Japan. I think it is one of the best decisions I have ever made.

When I first arrived, it was hot, humid, and everyone was celebrating something called *Obon*. I didn't know what it was, and didn't have anyone to celebrate with so I became very lonely. But then school started and I began teaching the *Eikaiwa* class at the community center. Soon, I had many new friends and everyone seemed to know who I was. I had never felt so famous.

There were many new things for me to get used to, besides being one of the only *gaijin* in Matsukawa. I learned to wear good socks in case I had to take my shoes off. I learned to bow all the time, even when I was driving. I learned to like new foods such as *ramen*, *yakiniku*, *okononiyaki*, and other Japanese foods that we don't have in America. Most of all, I learned how kind and generous Japanese people, and especially the people in Matsukawa, can be.

Since my arrival, people have invited me into their homes and lives and shown me so much about Japanese culture, which I would never have learned on my own. I don't think I can ever repay everyone for all the generosity they have shown me, but I will never forget it. In the last two years, I have not only gotten older but wiser. Living in Japan has changed me in so many good ways, and I only hope that someday I can share all of my great experiences with people in America.

When I first came to Japan, I knew I wouldn't be able to stay forever. But I had no idea how hard it would be to leave. I will miss the beautiful countryside of Shimoina, the tastes, sounds, and smells of each season, and most of all the wonderful people I have met. I hope we can meet again someday — in Japan or America or some other part of the world. So this isn't really goodbye, just goodbye for now.

ほんとうにありがとうございました！

by Elizabeth Firmage



7月から道路交通法が改正され、自転車の3人乗りが認められるようになりました。また、6月には飲酒運転の罰則が重くなりました。

ここ近年になって、携帯電話や後部座席のシートベルトなど厳しくなっていますが、私が車の免許を取った頃は、携帯電話も普及していなかったし、助手席のシートベルトも任意だった気がしました。もっと昔は、車にスピードリミッターが無ければシートベルトも2点式だったので違う意味で危険だった感じもしますが、昔は国道も砂利道だったので、無理はしなかったのでしょうか。

逆に無理と言えは、車でサーキット場を走った時の事、コースの予習をしなかったのもありますが、1周のタイムがF1カーの約2倍かかりました。無理をしても最先端の技術にはかないません。今では環境を考える時代でエコカーが人気で、車が無くなる事はありませぬ。タバコが値上がりしたら辞める人はいますが、道路交通法の改正で車の運転を辞める人はいないと思います。

やはり、人間の造った時代なので、人間は時代の流れに順応しますね。

(松下佳史)

公民館報
「まつかわ」
第 549 号
平成21年7月15日

発行所 松川町公民館
責任者 塩澤 三佳
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)